

第3章 都心臨海部の夜間景観の方向性

第2章で示した基本的事項を踏まえ、都心臨海部の夜間景観で目指すべき方向性を示します。

1. 夜間景観の方向性

都心臨海部の夜間景観の方向性

クリエイティブ エレガント
Creative & Elegant

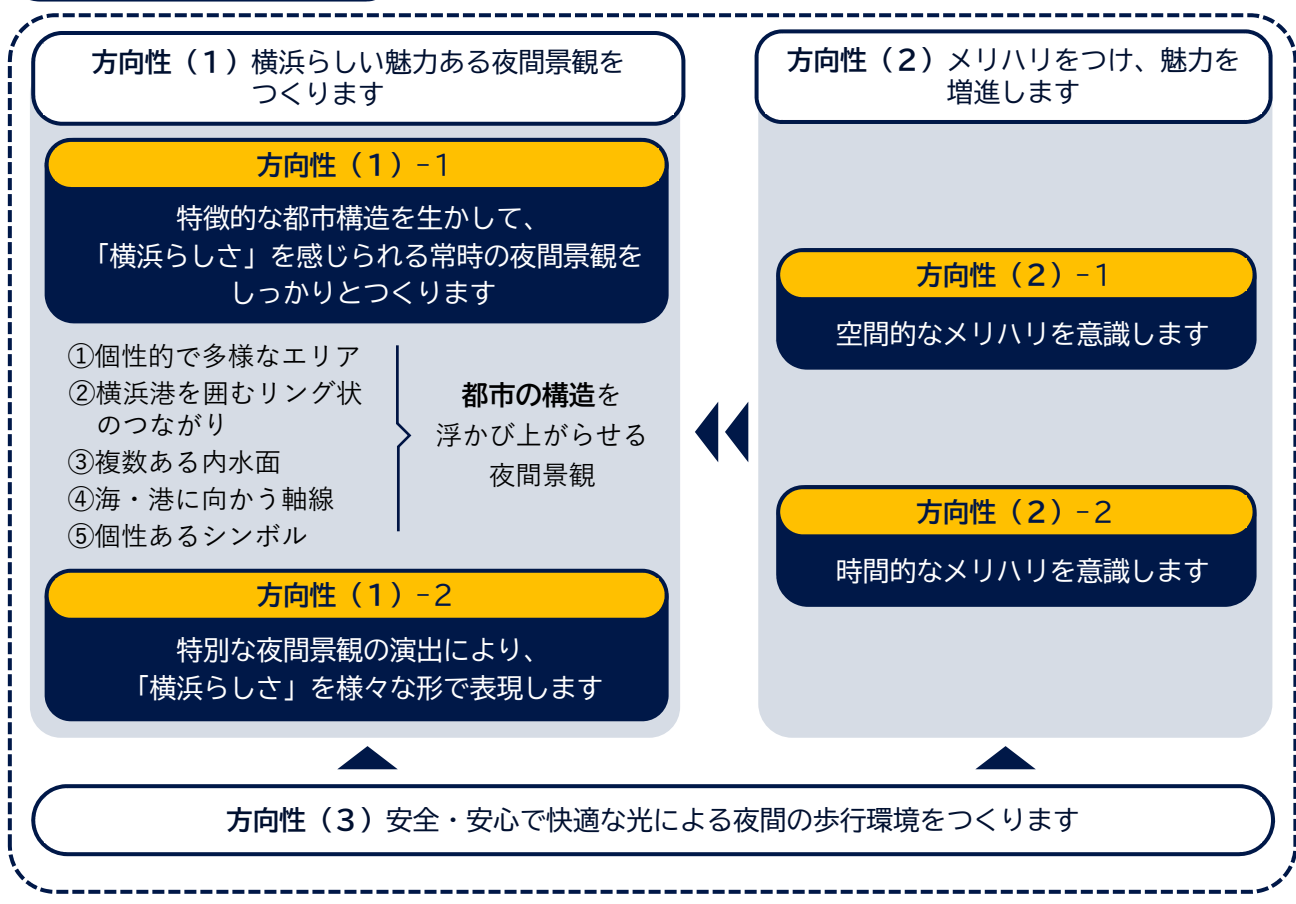
横浜の歴史や文化、エリアごとの個性が感じられるよう
創造性に支えられた魅力と活力、品位ある高質な夜間景観

これまでもまちづくりの中で大事にしてきた“開港以来の歴史や文化といった横浜らしさや時代を先取る先進性の共存”“歩いて楽しい横浜”を夜の光でも実現します。また、エリアごとの個性や賑わいが感じられる、魅力と品位のあるベーシックな夜間景観を整えていきます。

その上で、都心臨海部のスケール感を生かし、多くの人を惹きつけるような創造性と活力あふれる特別な夜間景観を、一定の品位を持ちつつ質高く進めます。日常の夜間景観とのコントラストを高めることで、互いを引き立て合い、魅力的な夜の横浜を演出していきます。

横浜全体で取り組んでいるSDGsの取組や脱炭素化についても、再生可能エネルギーの活用や省エネルギー化等によって、積極的かつスマートに推進します。

方向性の関係図



方向性（１）横浜らしい魅力ある夜間景観をつくります

方向性（１）-1

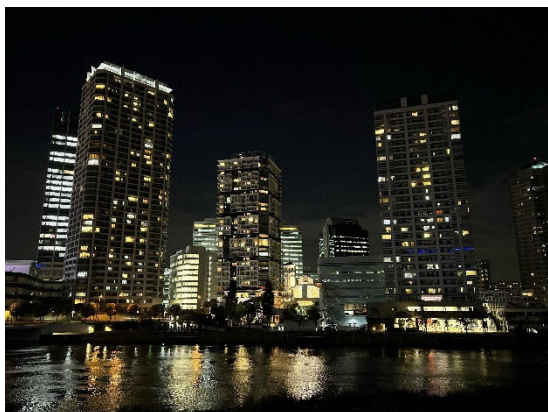
特徴的な都市構造を生かして、「横浜らしさ」を感じられる
常時の夜間景観をしっかりとつくります

都心臨海部の景観は、第２章２．都心臨海部の特徴のうち「都市構造」で示したとおり、これまでの歴史ではぐくまれてきた都市基盤が層状に重なり合って形成されています。これらの都市の構造を意識した演出方法の工夫をすることで、歩行空間や展望台、海上などから見たときに横浜らしさを感じられる夜間景観をつくり出します。

近景においては、歩行空間やエリアが持つ特色を楽しめ、中景においては、対岸や内水面越しの街並みやエリアごとに異なる夜間景観を楽しむことができます。また遠景においては、それらの重なりにより横浜らしさを感じることができます。新たな開発や土地利用の計画をする際にも、この都心臨海部の都市構造の一部を担うということ意識し、様々な場所からの見え方を検討することが重要です。

構造① 個性的で多様なエリア ⇒ エリアのまとまりと、エリアごとの違いが引き立つ夜間景観をつくる

- これまでの各エリアの景観づくりの考え方を継承し、エリアが持つ特色に合わせてふさわしい夜間景観の演出を行い、エリアのまとまりや特徴を際立たせます。
- また、それによりエリアごとの違いがはっきりすることで、お互いの個性を引き立たせ合い、多様な街の集合体としての横浜を浮かび上がらせます。



高層の集合住宅のあかりによる落ち着いた夜間景観
(ヨコハマポートサイド地区)



赤色をアクセントに暖色系、鮮やかな照明で賑やかさを演出
(横浜中華街)



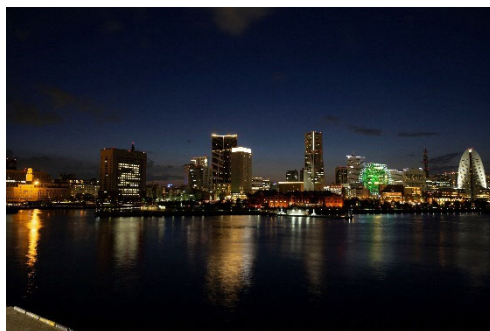
多種多様な照明が混在し賑わいが生まれている
(横浜駅西口周辺)



横浜赤レンガ倉庫を中心とした落ち着いた演出
(みなとみらい21新港地区)

構造② 横浜港を囲むリング状のつながり ⇒ エリア間のつながりと変化を感じる夜間景観をつくる

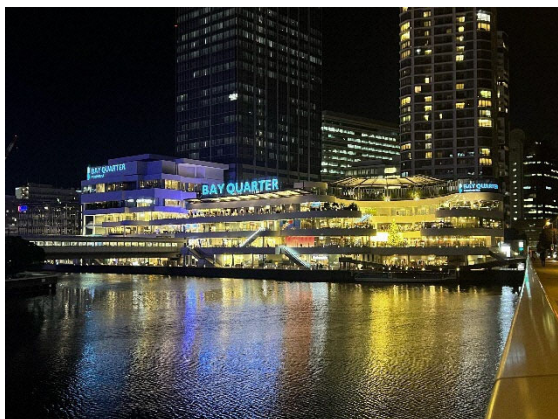
- エリアを横断する際に、横浜港を囲む一帯のまとまりを感じられつつも、エリアとともに移り変わる景観の変化を体験できるよう、他エリアとのつながりを意識した夜間景観を形成します。
- 海上等から内港を一望した際に、スケール感のある夜間景観となるよう、水際線沿いではリング状のつながりを演出し、エリアを横断した都心臨海部の夜間景観の連なりを表現します。



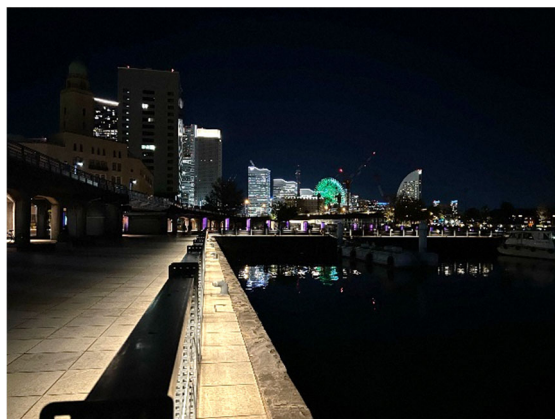
海上から内港を一望する

構造③ 複数ある内水面 ⇒ 水辺という立地を生かした夜間景観をつくる

- 水辺に位置する建築物では、水辺側を裏とせず、対岸や内水面からの見え方を意識し、しっかりと顔をつくります。
- 水辺の建築物や、手すりや樹木等の外構照明は、水面への映り込みも意識した照明演出とすることで、街の一体感や魅力ある水景をつくり出します。



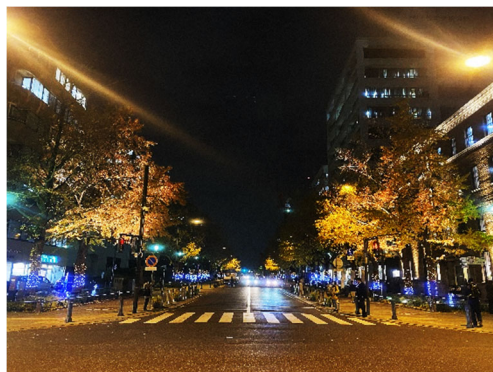
水辺に対して顔を向ける（バイクォーター）



水面への映り込みを意識した照明（象の鼻パーク）

構造④ 海・港に向かう軸線 ⇒ 通りごとの特色を大切に、海・港と街のつながりが感じられる夜間景観をつくる

- 夜間景観においても通りごとの歴史や個性が感じられ、歩いて楽しめるよう演出します。
- 街と海・港を行き来する際に、その先に存在する街や海・港への期待感が高まるよう、水際線との交差部分から通りへの見え方も大切にします。



日本大通りらしい鑄鉄の灯具と銀杏が映える黄色い光

構造⑤ 個性あるシンボル ⇒ 横浜やエリアの個性の象徴として印象づけ、「港町・横浜らしさ」を感じる夜間景観をつくる

- シンボルとなる建造物は、その特徴を効果的に魅せる照明の工夫などにより、昼とは異なる形で横浜やエリアの個性を印象づけます。



シンボルとなる建築物等の昼と夜の見え方の変化（横浜マリントワー、氷川丸）



歴史的建造物の本来の色を尊重した照明（横浜赤レンガ倉庫）



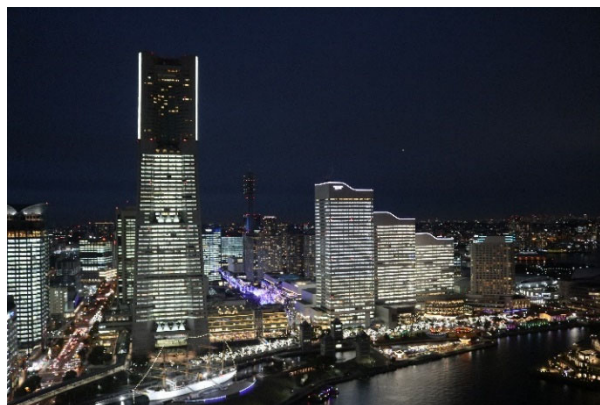
海に映える寒色系の照明（横浜ベイブリッジ）

方向性(1)-2 特別な夜間景観の演出により、「横浜らしさ」を様々な形で表現します

- エリアをまたぐような広域での一斉ライトアップ・ダウンや、四季を感じる光の演出、時間によって色を変化させる光の演出など、光の特徴を生かした様々なテーマによる演出により、昼間や常時とは異なる形で、新たな魅力ある夜間景観の演出を誘導します。
- 横浜ならではの都市空間の特徴や、実施する場所の特徴を生かすことで、他都市にない横浜らしい魅力を感じる演出を目指します。
- 創造性を重視し、横浜ならではの歴史・文化・芸術などを生かした質の高い演出を目指します。



提灯を並べ、龍を模した演出（横浜中華街春節燈花）



全館点灯イベント（タワーズミライト）

〈コラム〉光のアート×省エネルギー活用 of 取組

- 最近の環境アートの盛り上がりから、光そのものを扱ったアートもよく見られるようになりました。これらのアートは、意図を持った表現が屋外広告物に該当したり、景観のルールに合致しない場合がある一方、そうしたルールにより表現の自由が制限されることも課題です。公共的な都市空間を利用することを踏まえた質の高い表現については、屋外広告物や景観のルールを緩和することで、自由度が高く創造性ある演出を推進します。
- 事例紹介：スマートイルミネーション横浜
アートと環境技術を結びつけた夜間景観の創造を目指して、平成23(2011)年から令和元(2019)年にかけて開催されたアートイベントです。LED照明や太陽光発電といった省エネルギー技術の活用など、様々な環境技術の実証展示の場を担うとともに、アーティストによる多彩な「光のアート」が夜の海辺に繰り広げられることで、歴史的建造物や港という都市の個性の再認識につながりました。

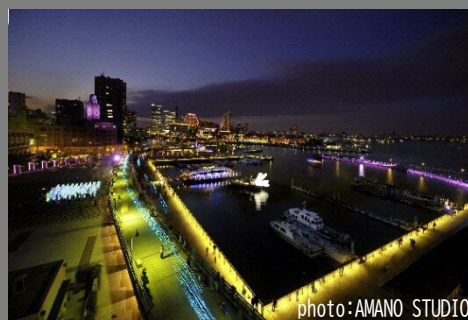


photo:AMANO STUDIO
スマートイルミネーション横浜2012

〈コラム〉横浜市屋外広告物条例の改正

- プロジェクションマッピングなどの新たな映像技術による屋外広告物は、主にイベントで掲出されることが多く、街の賑わいを形成しており、より一層の活用が求められています。横浜市では、令和3(2021)年に屋外広告物条例を改正し、「イベント広告物協議制度」を新設しました。この制度に基づき市と協議を行うことで、イベント広告物については大きさ等の基準が緩和され、より魅力的なイベントを促進し、賑わいの創出につながっています。

方向性（２）メリハリをつけ、魅力を増進します

方向性（２）-1 空間的なメリハリを意識します

- エリア全体を一様に明るくするのではなく、エリアを部分的に明るくすることによりその箇所を引き立たせたり、また特定の建物や通りについて際立たせたい箇所は照らし、その周辺は落ち着いた光など、空間的なメリハリをつけることで、抑揚のある街並みとなるよう配慮します。



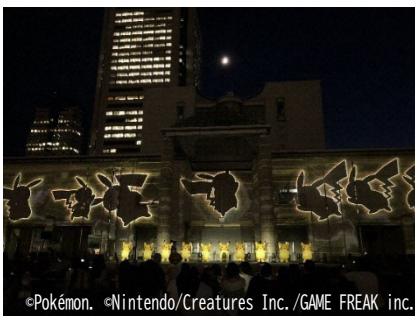
歴史的建造物をライトアップし、その周辺では控えめな照明とすることで、敷地同士の光に強弱をつけ、シンボル性を演出している（横浜郵船ビル）



来街者を迎えるゲート空間として建物の正面を際立たせ、それ以外の部分は落ち着いた光とし、メリハリのある照明としている（村田製作所みなとみらいイノベーションセンター）

方向性（２）-2 時間的なメリハリを意識します

- 横浜らしい常時の夜間景観とイベント時の特別な演出を、どちらもより楽しめるようにするために、常時は落ち着いた夜間景観とするとともに、特別演出の頻度や期間・演出時間については限定的にするなど、イベント時の特別感を高めるように配慮します。
- 季節に合わせて照明の色や強さを変えることや、イルミネーションイベントの実施等、日常の中にも時間の変化を感じられる夜間景観についても積極的に誘導していきます。



建物壁面を利用したイベント時の
プロジェクションマッピング
（ピカチュウ大量発生チュウ！／2018.8）



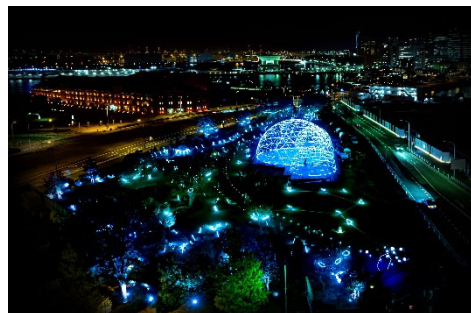
河川の護岸を利用したイベント時の
プロジェクション
（ヨルノヨアートクルーズ）



季節に合わせたイルミネーション
（バイクオーター）



撮影：（一社）神奈川県ドローン協会
提供：クリエイティブ・ライト・ヨコハマ実行委員会



インナーハーバーのスケール感を生かした時間限定の特別演出
（ヨルノヨ-YOKOHAMA CROSS NIGHT ILLUMINATION-）

方向性（3）安全・安心で快適な光による夜間の歩行環境をつくります

- 夜間景観を楽しむことのできる歩行環境を整えるため、安全・安心だけでなく、居心地の良さや温かさを感じられる快適な光環境を目指します。



ベンチ下の照明（東京都）



人の気配のする建物からの漏れ光（MARKIS みなとみらい）

〈コラム〉SDGs 未来都市・横浜

- 横浜市は平成 23（2011）年に環境未来都市に選定され、環境負荷を抑えながら経済的にも発展し、市民生活の質を向上させるまちづくりの取組を積極的に進めてきました。現在は、環境未来都市の取組をステージアップさせ、世界が合意した SDGs（持続可能な開発目標）を踏まえ、環境未来都市・横浜を環境・経済・社会課題の同時解決とグローバルパートナーシップの視点からさらに発展させ、「SDGs 未来都市」として進化させることにチャレンジしています。令和 4（2022）年には、横浜市と一般社団法人横浜みなとみらい 21 が、みなとみらい 21 地区の 32 施設とともに、環境省が実施する「脱炭素先行地域」に選定されました。
- 夜間景観の形成においても、SDGs 未来都市・横浜として、環境に配慮しながら、経済や文化による新たな価値・賑わいを創出し続ける都市の実現を目指します。

2. 魅力ある夜間景観により実現したいこと

魅力ある夜間景観の創出は、横浜の街そのものの魅力を向上させ、夜間の滞在人口の増加にもつながります。市民・事業者・行政が目標を共有し、それぞれの取組が連携しながら、様々な手法で夜間景観を魅力的にしていくことが重要です。

2-1. 昼と夜の異なる顔で、横浜の景観を二度味わえる街

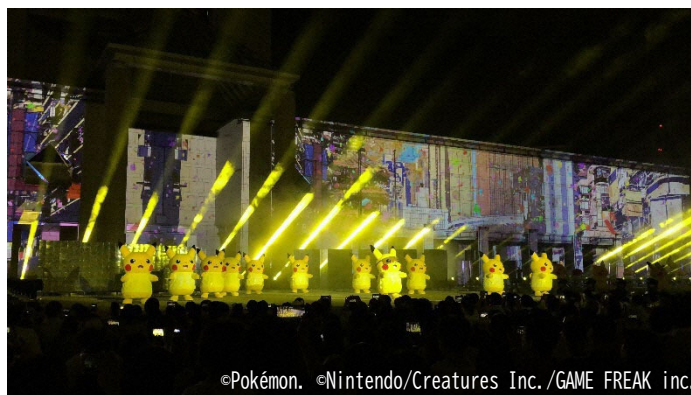
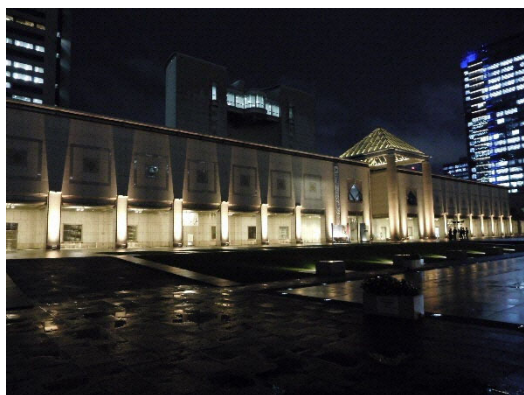
光の特性を生かし、特徴的な建物を際立たせることや、複数の建物を同じ色でライトアップしてまとまりとして見せることなどにより、昼は多くの建物に埋もれて見えなかった個性が顕在化し、あるいは同じ建物でも異なる見え方になります。昼とは異なる街の表情をつくることで、昼だけでなく夜も滞在したくなる街を目指します。



昼と夜の建物の見え方の変化（横浜市開港記念会館）

2-2. 非日常を楽しめる街

光を主体とする夜間景観の演出は、照らす対象となるものを改変することなく、普段とは異なる街の新しい表情をつくることができます。期間限定のイベントなど、普段とは異なる非日常の体験を創出することで、市民や就業者が街の変化を楽しめ、来街者が何度も訪れたいような街を目指します。



日常と非日常の建物の見え方の変化（横浜美術館）
（左：通常時 右：ピカチュウ大量発生チュウ！／2018.8）

2-3. 港町・横浜ならではのスケールの大きな都市空間体験ができる街

横浜の景観づくりの基本は、一定のまとまりを持った特徴あるエリアごとに、それぞれの特徴を生かした景観形成をしていくことです。海上や栈橋・埠頭、超高層ビルなどから一望できるインナーハーバーという立地特性とスケール感を生かすことで、常時の夜間景観と特別演出の双方において、横浜でしかできない都市空間体験の創出を進めます。

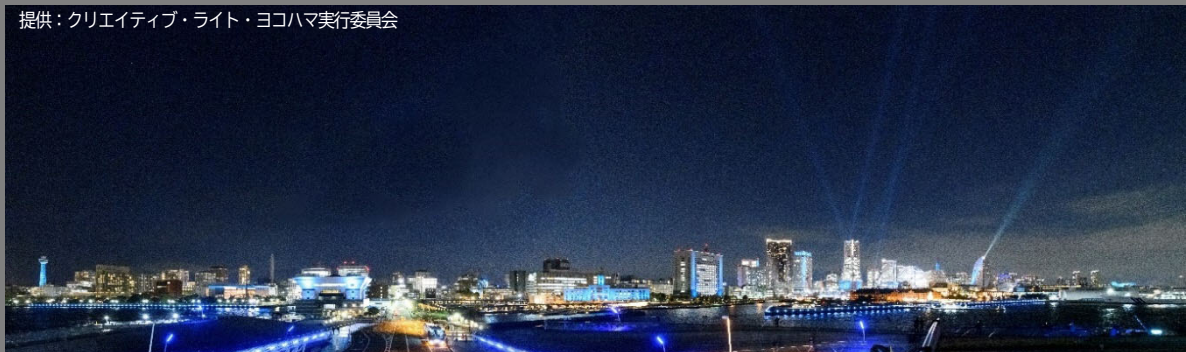


インナーハーバーのスケール感

〈コラム〉 創造的イルミネーション事業

- 横浜市では、国内外の観光客を増やし街の賑わいを創出して、ナイトタイムエコノミー活性化の契機とするため、横浜ならではのスケールで、港の景観を光と音楽により時間限定で演出する創造的イルミネーション事業を令和元（2019）年度から実施しています。
- 光と音楽の演出は、冬のイルミネーションイベントとしてスタートしていますが、年を追うごとに演出に参加する施設を増やし、世界から選ばれる夜の横浜観光の目玉コンテンツとして、毎日実施できるよう街ぐるみで育てることを目指しています。あわせて、横浜の特徴である水辺や海・港へ向かう軸線を夜も安全に楽しく快適に歩ける光環境へと再整備することで、夜の魅力的なウォーキングルート「光の道」を創出する取組も進めています。

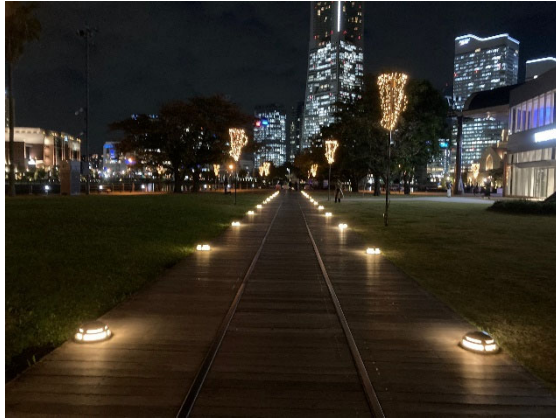
提供：クリエイティブ・ライト・ヨコハマ実行委員会



冬のイルミネーションイベント ヨルノヨ-YOKOHAMA CROSS NIGHT ILLUMINATION- (2021)

2-4. 夜間も安全・安心かつ快適に楽しめる街

照明は、足元や行先を照らし、夜間の歩行や移動の助けとなるものです。さらに、平坦な地形の都心臨海部においては、歩行空間自体が周囲の夜間景観を眺める視点場となります。安全・安心に移動できるとともに、周囲の夜間景観を楽しむことができるよう、快適で落ち着いた歩行空間の照明環境を整え、夜間の回遊性向上につなげます。



歩行空間のフットライト照明（汽車道）



連続するポール灯（象の鼻パーク）

2-5. 横浜を象徴する“いつもの”景色がある街

市民にとっては、旅行先から帰ってくる際に見るとホッとするような、また来街者にとっては、一度行ってみたい・また行きたいと思えるような、全体としてまとまりのある、横浜らしい印象的な「いつもの」景色を形成し、未来にわたって維持していきます。



歴史的建造物である横浜赤レンガ倉庫と近未来的な高層ビルが融合した横浜らしい“いつもの”夜間景観